



## アジア労働安全衛生チームを招聘

### 5カ国から9名のPOSITIVEトレーナーを招聘

JILAFは、アジア労働安全衛生チームを9月2日から15日にかけて、POSITIVEプログラムを実施している7カ国のうち5カ国（バングラデシュ・モンゴル・ネパール・パキスタン・フィリピン）からPOSITIVEトレーナーとして活躍する9名（うち女性3名）を経験交流及び情報共有を目的に招聘した。

POSITIVEは、職場の改善・労働災害の減少・労使関係の改善などを目的とした労働組合主導の実践重視型労働安全衛生を促進するプログラムであり、アクションチェックリストや現地の事例を活用するなど、簡単で実践的な手法が特徴である。これまでに、JILAFは日本の労働安全衛生に関する専門家の方々の協力を受け、アジア地域7カ国（パキスタン・フィリピン・バングラデシュ・モンゴル・タイ・ネパール・中国）でPOSITIVEプログラムを展開してきた。

今回は、通常の招聘プログラムをベースに、労働安全衛生に焦点を絞ったプログラムを編成した。労働講義や中央労働災害防止協会の訪問を通じ、日本の労働法制や労働安全衛生、労働災害防止に向けた取り組みについて学んだ。連合岐阜への訪問では労働安全衛生センターの役員と懇談し活発な意見交換を行った。また、太平洋工業や新江東清掃工場を訪問し、現場において労使一体で取り組む労働安全衛生活動を学ぶことができた。これらに加え、9

月8日（水）には「POSITIVE活動事情を聴く会」、9月13日（月）には連合・労働科学研究所・国際労働財団共催で、「労働組合と安全衛生国際フォーラム」を開催し、招聘者の活動を発表する機会を設けた。8日の「POSITIVE活動事情を聴く会」では、各招聘者が日本人専門家やJILAF役職員が参加する中、

招聘者間の経験交流及び情報共有を図ることを目的に、各々が取り組む労働安全衛生活動を写真などを使い発表した後グループ討議を行った。各招聘者は、活発に質疑応答を行い積極的に参加するとともに、他国の経験（フィリピンがインターネットを使い情報ネットワークの構築を行っている経験など）を積極的に学ぼうと努めていた。日本人専門家からは、具体的な成功事例を聞くことができPOSITIVEの方法論が確実に根付いていることや労働者自身が積極的に行動していくことの大切さを改めて確認できたとの評価があった。9月13日（月）のフォーラムでは、多くの労働安全衛生に関わる方々が参加される中で、小木和孝労働科学研究所 主管研究員が基調講演を行った後、各組織を代表した6名の招聘者が各々の労働安全衛生に関する活動や改善事例を発表。ネパールNTUCのシタさんは、POSITIVEセミナーを受け、自身の職場でも労働安全衛生に対する取り組み



の必要性を実感。経営側を説得して労働安全衛生セミナーを実施し24時間の医療体制などを実現させたことを話した。その後、経営側からシタさんへ職場の労働安全衛生に大きく貢献したとして感謝状を送ったという。また、連合本部・JEC連合・連合東京から「様々な日本の経験と取り組みを紹介」と題して発表があった。本フォーラムにより、招聘者が実施しているPOSITIVE活動を広く国内関係機関に広めることができた。

今回のプログラムにより、招聘者たちは多くの知識を得てスキルアップをすることができた。これは、各々の招聘者がそれぞれのプログラムに目的意識をもって取り組んだからだと思う。今後は、今回培った招聘者間でのネットワークを生かし、更なる経験交流・情報共有を行い、各国の労働安全衛生状況をこれまで以上に改善していくことを期待したい。

# モンゴルCMTU/JILAF

# 組織運営セミナーを開催

8月19、20日の2日間ウランバートルにおいてモンゴル労働組合総同盟（CMTU）との共催で、CMTU/JILAF組織運営セミナーが開催された。1994年のセミナー開始以来初めてのテーマとなる今回のセミナーでは、9月の大会を前に規約改定作業を行っていたCMTUから「連合の経験から組織の課題解決のためのヒントを得たい」という要請を受け、高橋均連合副事務局長を講師として招き、連合運動の現状と課題について講義をしてもらった。ナルマンガフ副会長からの現状説明や参加者の質問などから、CMTUの組合費配分や財政管理に対する強い関心がかがえらるとともに、人的基盤の拡大も課題の一つであることがわかった。

大会前の多忙な時期のセミナー開催だったためか、事前の事務連絡が頻繁にとれず詳細に至るまでの十分な決定ができなかったのが残念であった。今後は開催時期も含め、セミナー準備という点で改善が必要であると思われる。

なお、9月8日に行われたCMTUの第18回大会では、6月

に国会議員に就任した前アディヤ会長の辞任に伴い、会長・副会長選挙も行われた。選挙の結果、会長には前国会議員のSodnomdorj



モンゴル組織運営セミナー

Nyamjav氏が、副会長には前モンゴル教職員組合議長Chimeddorj Mishig氏が就任した。新体制のもと、今後ともCMTUとの関係を密にし、有意義な交流・協力を進めていきたい。

# 国際講演会「EU加盟と労働組合の対応」を開催

昨年度からJILAFの事業となった欧米からの労組リーダーの招聘事業の一環として、10月7日～20日の日程で、中東欧の4ヶ国から、9名のトップリーダーを招聘した。対象としたのは、今年5月にEUに加盟したチェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキアで、近年日本からの投資も増加するなど注目を集めている地域であることから、「EU加盟と労働組合の対応」というテーマで、10月12日に国際講演会を開催した（連合共催、JILPT後援）。

国際講演会では、各国の組織の簡単な紹介のあと、現在直面している課題について、歴史的な経緯も含めて報告が行われた。報告の中で強調されていたのは、EU加盟は体制変換後の改革プロセスの節目であり、労働組合としてもEUへの加



ヨーロッパチーム国際講演会

盟を原則的には支持し、労働法改正などそのための準備を進めてきたが、今後も取り組むべき課題が多く残されているということであった。チェコでは西欧との賃金格差、スロバキアでは高い失業水準（20%）のもとで、派遣労働や有期契約といった“柔軟な”雇用形態が増加しているし、いずれの国でも地域間での格差が拡大しているとのことであった。

EU加盟により経済が活性化し、雇用の拡大や労働条件の向上が期待できる一方、投資拡大のための優遇措置を廃止する必要が生じたり、ユーロ導入のための財政的な条件を整える必要性など、経済構造のさらなる変化が求められているとの報告があった。特にハンガリーでは、さらに安い労働力を求めて、企業が海外に移転してしまうことも現実になっており、熟練労働者を増やし、生産性を高めていかなくてはいけないという指摘もなされた。ポーランド連帯は労働移動の自由を求めてきたが、移行期が設定されたことに対して、加盟国間は相互に権利が保障されるべきだという考えを述べていた。

講演会の詳しい内容は、今後作成される報告書を参照して頂きたいが、旧社会主義のこれらの国もEU加盟を1つの契機として、ますますグローバル化の影響を強く受け、労働組合としては、各国と連携して問題に取り組んでいかなければならないことが確認された。

## 回廊



和田 茂

## PROFILE

1955年生まれ ITR(国際運輸労連)アジア太平洋地域部長として地域活動全般を統括  
1982年に国鉄労働組合本部からITFロンドン本部へ派遣されたことから国際活動に関与  
ITF日本事務所長を経て1993年から現職

## 美食の陰の搾取 複雑な国際関係に漂うビルマ人漁船員

国際労働運動に携わっていると、あまりに悲惨かつ複雑な現実には呆然とすることがある。ビルマ船員組合から聞いたインドネシアの離島にいる同胞の漁船労働者の問題もどこから手をつけるべきか随分と悩まされたが、活動家がインドネシア警察によって逮捕され、タイへ強制送還されるという事態になり、ICFTUやインドネシアとタイ両国の労働組合と政府を巻き込んだ取組みへと急展開している。

軍事政権下のビルマでは経済も行詰り、何百万人も国民が国外に雇用を求めて出国している。その多くは陸続きのタイに流入し、底辺でタイ経済を支えている。タイの漁業は、以前の自国向け近海漁業から、遠洋に出てマグロなどの高級魚を日本などに輸出するものへと様変わりしてきたが、その過酷な労働と低賃金ゆえにタイ人からは敬遠され、ビルマ

人やカンボジア人を乗り組ませるようになってきている。

職を求めることに必死なビルマ人労働者は、斡旋ブローカーに法外な手数料を払い、中には将来の賃金まで差し出すことを約束させられて国境を越え、更にタイの漁村からインドネシア沖などの漁場に駆り出される。そこで待っているのは何年間にもわたる奴隷のような厳しい労働で、海中に消え去る者も少なくない。止むに止まれず脱船し、インドネシアの離島で途方にくれているビルマ人が千人近くいる。

確かにインドネシアから見れば不法入国者ではある。タイから見ても違法な移民労働者だ。だが彼らは紛れもない搾取の犠牲者である。日本の食がこうした現実に支えられていることを知っておいて欲しい。

## 労働組合で取り組む国際協力

No. 6

## NTT労働組合の児童労働撲滅キャンペーン

## NTT労働組合

中央執行委員 大澤浩一さん

NTT労働組合は2004年1月から6月までの半年間を児童労働撲滅キャンペーン期間とし、この間に2回のスタディツアーを組んだ。1回目はインド、2回目はタイとパキスタン。いずれもIPEC(児童労働撲滅国際計画)の参加国である。IPECは世界中で児童労働撲滅のためのプログラムを実施している国際機関であるが、今回のスタディツアーにおいては、この上部機関であるILO(国際労働機関)の協力を得て政・労・使との会合も開催された。これにより、ともすれば現場体験だけで終わってしまいがちなスタディツアーの意義をより深め



「遠い国から来てくれてありがとう」~ツアー参加者と握手を交わすインドの少女たち~

ることができた。

大澤さんは東日本本部にいたときの経験から、国際活動が組合員の目に見える形で行われることが重要だと考えている。キャンペーン期間中は半年間でポスターを3種類作り、月刊の機関紙に毎回関連記事を書き載せるなどして情宣活動に力を入れた。こうした取り組みと、組合員がもともと持っていたボランティア活動への関心の高さから、ツアーには定員20人を大きく超える190人の応募があった。応募者が特定の世代や男女に偏らなかったことは、国際協力活動に対する理解を組合員全体に浸透させるための下地が存在していることを意味する。この下地をより確固たるものにするため、NTT労組では国際分野で活躍できる人材の育成にも今後さらに力を入れたいと考えている。

児童労働撲滅キャンペーンは来年に第二弾を予定中。スタディツアーの開催も含め、現在は企画を練っているところである。「始まったばかりで、まだ戸惑うことも多い。だが模索している段階が面白い」と大澤さんは語る。組合員の奉仕精神に下支えされたNTT労組の国際協力活動が今後ますます盛んになることを期待する。

## 第13回ICFTU-APRO/OTCILS /JILAF上級指導者コースを シンガポールで開催～20カ国から31名が参加～

8月17日から31日までの日程で、シンガポールで上級指導者コースが開催された。期間は前年度の4週間から2週間へと大幅に短縮されたが、研修の内容は変わっていない。このため今年はとりわけ密度の高い研修となった。

昨年まで多くの時間が割かれたカントリーレポートの報告は今回より割愛さ



れた。理由は、カントリーレポート発表の場が話し手の一方的な報告に終わっていたため。その分、今年はディスカッションに重きが置かれ、参加者は互いに持ち寄ったカントリーレポートを元に、安全衛生、ジェンダー、児童労働など10以上のテーマについて連日ディスカッションを交わした。またフィールドワークを通じてチームワークとリーダーシップについて学んだほか、シンガポールの組合の活動などを視察する機会を得た。

参加者は「多様性と団結」を合言葉に互いを尊重し、国際連帯意識を高めた。帰国後は国際的な視野のもと、組合のリーダーとして各国の労働事情の改善に資することが期待されている。

## 在キューバ日系人への衣料支援ありがとうございました!

今年の2月、在キューバ日本大使館岩田大使(前JILAF常務理事)より、在キューバ日系人への衣料支援について力を貸して欲しいとの依頼があった。キューバの日系人は、第二次大戦における強制収容、カストロ政権の共産主義革命による財産没収などによって多くの苦勞を強いられながらも今日まで地元根づいて生活している。しかし、彼らは日本政府が主導したいわゆる集団移民ではなかったため日本政府からの金銭的な支援がなくその生活は楽ではない。代表の方に聞くと「古着がほしい」とのこと。

さっそく衣料支援を関係組織にお願いしたところ、ダンボール80箱におよぶ暖かいご支援をいただいた。この夏、その引渡しが無事完了し、「日系人の皆様は非常に感謝して居られ、ご支援頂いた連合の皆様にくれぐれも宜しくお伝えください」

という岩田大使からの礼状と写真が届いた。今回の衣料支援にご協力頂いた組織は、NTT労組、UIゼンセン



キューバ各地の日系人代表の方々

同盟、自動車総連、情報労連、電機連合、電力総連、連合本部スタッフユニオン、連合山梨スタッフユニオン、その他個人有志のみなさま。

### JILAFカレンダー

(2004年9月～2004年11月)

#### 招聘

アジア労働安全衛生チーム	9月2日～9月15日
韓国・香港・ベトナムチーム	9月23日～10月6日
ヨーロッパチーム	10月7日～10月20日
女性労組研修チーム	10月21日～11月3日
中東・アフリカ北部チーム	11月4日～11月17日

#### 現地支援

労働組合と安全衛生国際フォーラム	9月13日	東京・総評会館
フィリピン TUCP モニタリング	10月5日～10月17日	マニラ/ケソン/パコロド/セブ
中国ACFTU POSITIVEフォローアップ会議	10月18日～10月19日	江蘇省太倉
ベトナム VGCL 生産性と賃金/POSITIVEセミナー	10月26日～11月12日	ホーチミン/ハノイ
インド INTUC 学校プロジェクト	11月8日～11月13日	マールカプール

#### その他

ソーシャルアジアフォーラム「東アジアの未来と労働組合の役割」	10月14日～10月18日	韓国・ソウル
ICFTU-APRO調整会議	11月1日～11月5日	シンガポール

10月1日付けで情報労連より新たにJILAFスタッフに加わった元林稔博さんをご紹介します。

**INSIDE  
OUT**

インサイド・アウト

『組織内の労働組合活動、また地域の活動にも多少携わってきましたが、これからは今までと少し違う角度からの活動となり、少し(かなり)不安がありますが精一杯がんばりますのでよろしくお願いします。』



元林稔博(もとばやしとしひろ)/  
情報労連より出向